

能代市バスケの街づくり推進計画の点検及び推進に関する報告書

能代市バスケの街づくり推進委員会は、「能代市バスケの街づくり推進計画」の初年度及び2年度目の点検及び推進を市と協働で行ってきました。

その結果を下記のとおり取りまとめましたので、別紙資料を添えて報告します。

記

1 街づくりの指標について

街づくりの指標のうち、鍵となるものを次のとおり設定し、主にこれらを目安としながら、活動の状況や実感などを踏まえ、計画を点検した。

(ゴール1：本物のバスケに触れられること) 能代カップの観客数

(ゴール2：バスケで誰でも集えること) バスケミュージアムの来館者数

(ゴール3：バスケで地域が潤えること) バスケの街ロゴマーク使用の登録者数

これらを踏まえ、次年度以降、①能代カップの活性化、②バスケミュージアムの機能強化、③バスケの街ロゴマークの普及、が取組の課題であることを確認した。

また、指標の目標値については、上記3つを中心として、その推移をみながら、今後の委員会の中で検討していくこととした。

2 バスケの街ロゴマークについて

委員会の主な活動の1つとして、平成24年度にバスケの街ロゴマークの選考に関わり、25年度には試行使用を行いながら管理方法を検討し、ガイドラインの成案に至った。

26年度からの一般使用にあたっては、当面は普及していくことがもっとも大事なため、使用料等の料金は徴収しないこととし、その管理と普及については、引き続き委員会として関わっていくこととした。

3 2年間の総括と今後の方向性について

バスケミュージアムの開設やバスケの街づくり市民チャレンジ事業補助金の創設などをきっかけとして、市民や民間においてもさまざまな取組が新たに生まれ、そうした活動を目にする機会が増えた一方で、競技レベルの向上が感じられない、市民の関心が高まっていないなどの課題も挙げられた。

これらを踏まえ、今後の方向性として、次の点が挙げられた。

(1) ネットワーク形成と情報発信について

人と人がつながる機会が増え、徐々にネットワークが形成されてきており、バスケ関連のイベント等のほか、一般のイベントにおいてバスケの要素を取り入れる機会も増えてきた。

こうしたことで、バスケに関する情報発信も増えてきているが、今後はネットワークを活用しつつ、全国に向けた情報発信について充実していくことが望ましい。

(2) 競技力の向上について

現状の競技レベルを考慮すると、競技力向上のためのさらなる施策のほか、東京オリンピック開催決定をきっかけとした合宿誘致等の施策を講じる必要があると思われる。

また、能代市総合体育館については、競技力向上のためにも、利便性の向上、環境整備の充実及び利用の促進を図っていただきたい。

(3) バスケの街づくりへの協力体制について

効果的で効率的な取組を進めていくためには、市教育委員会や競技関係者の協力体制が不可欠であり、バスケの街づくりへ積極的に関わっていくことが望ましい。

平成26年3月24日

能代市長 齊藤 滋 宣 様

能代市バスケの街づくり推進委員会
委員長 石井 一生

2年間のバスケの街づくりを振り返るための検討資料

【出会い】

(良かったこと)

- ・委員になり、出会いが増えた
- ・イベント開催により、志を持つ人と出会えた
- ・バスケを好きな人が多いことに気づいた
- ・能代以外の地域で、能代のバスケの街づくりに協力してくれる人が出てきた
- ・バスケを意識して見るようになった
- ・有名選手に会える機会が増加した
- ・健康フリースロー大会に出て、ボールが少し恐くなくなった
- ・本場のNBAを見たくなった←観光協会等でバスケ観戦ツアー（国内、国外、プロ）を企画

【バスケミュージアム】

(良かったこと)

- ・バスケの街づくりの拠点、バスケミュージアムができた
 - ・バスケミュージアムが新聞に載るようになった
 - ・バスケミュージアムの古い本が役に立った
 - ・noshiro.fmができた（バスケミュージアムからこんにちは）
 - ・バスケミュージアムができたことで、能代に行く目的が増えたと言われた
- (足りないこと・残念なこと)
- ・バスケミュージアムがもっと賑わってほしい←もっと駐車場がほしい
 - ・バスケミュージアムがもう少し立地の良い場所にあればいい
 - ・バスケミュージアムの規模が小さいと言われた

【情報】

(良かったこと)

- ・バスケの情報発信が積極的になった
 - ・情報量、発信元が増加した
 - ・バスケの街づくりに関する新聞掲載が増えた
 - ・バスケに関する情報やイベントを知ることができるようになった
 - ・スポーツのまちづくりにマスコミが興味を示した
 - ・他地域へ出かけた際に、多様な視点で街を見ることができるようになった
- (足りないこと・残念なこと)
- ・イベントがあることを知らなかった←常設のイベントカレンダーを作る（ネット、広報紙、新聞）
 - ・いつかは能代に行ってみたいとの声を聞くが、実際はそんなに来ていない

【イベント等】

(良かったこと)

- ・能代カップに行くことができた
 - ・能代カップに委員が関わっていた
 - ・バスケの勉強会が始まった
 - ・バスケ関連のイベントが増えた
 - ・バスケ以外のイベントがバスケに絡むようになってきた
 - ・バスケに興味を持つ人が増えた
 - ・能代駅前のイルミネーションでバスケが使われていた
- (足りないこと・残念なこと)

- ・もっとバスケ関連イベントに参加したかった
- ・一部の人の盛り上がりになっていないか←健康フリースロー大会のようなバスケを体験できる機会を増やす
- ・市民の関心が高まらない←ハピネッツのボランティアをやってみる
- ・バスケの街能代はもっとすごいと思ったと言われた

【PR】

(良かったこと)

- ・バスケグッズが増加した
- ・ロゴマークを見かけるようになった
- ・東京オリンピック開催決定で、バスケの街づくりがクローズアップされている←東京オリンピックの合宿誘致

(足りないこと・残念なこと)

- ・バスケの街づくりの活動があまり知られていない←バスケで何かのためになるようなことができないか
- ・バスケの街を誇れると思う市民が減少している
- ・ロゴマークがまだ周知されていない←ロゴの入ったポスターを配布する
- ・バスケの街の関連商品がもっとあっても良い←バスケの視点で能代のお土産をセットにするといいことを考えられないか
- ・NBA、プロリーグ、映画など、著作権元に協力してもらいたい←支援団体（バスケ以外）との連携推進。能代発信で全国へ、出版やキャリアパス

【競技】

(良かったこと)

- ・NNLが発足した←結果を地元新聞に載せたらどうか
- ・身近でバスケをやっている人が増えた
- ・三種は競技者が多い、能代はイベントが多い

(足りないこと・残念なこと)

- ・能代市より三種町の方が盛り上がっている←大会の新設ができないか
- ・大会運営スタッフ不足
- ・バスケに関する合宿が増えていない
- ・ミニバスの人口が減っている←全国ルールに合わせる
- ・高校のチームが減った←高校生の試合などをU-stream等で観られるようにできないか
- ・競技の人と街づくりの人のギャップが埋まっていない気がする
- ・能代工業高校が強くなっていない←技術だけでなく、メンタルトレーニングを取り入れる
- ・総じて競技レベルの向上が感じられない←小・中学校の独自リーグの可能性を探る（バスケの塾のようなことができないか）。指導者への技術向上講習会を多く

【環境】

(良かったこと)

- ・能代市総合体育館のラインが更新した

(足りないこと・残念なこと)

- ・少しでもお金が絡むと体育館が借りづらい←半商用利用（公共性が高いもの）のための規定を作る。民間活力を引き出すための指定管理なので、商業ベースの行為が可能な仕様書にする
- ・体育館の飲食禁止が厳しくて興行に影響する
- ・能代市総合体育館のバスケットリング設置が不便←もっとメインコートで試合をしたい
- ・能代市総合体育館のタイマーが古く、使える人も少ない←要望を出す先をわかりやすくする。教育委員会に提案・要望を出す

今後の目標設定を検討するための資料

150%増しの目標を立て、それに向かうための手段を考えることで、今のバスケの街能代が行っていきべき方向性や目標が定まってくると考えた。大きな目標を立て、そこから時間を遡って考えることで、大きな将来に繋がる「簡単な1歩目」を考えることができる。

【文化関係】

例えば

- ・能代発、バスケマンガ・アニメが出来る。ねぎ一菜の活用 …という目標を立てると
 - 3年後、ねぎ一菜アニメ化、バスケ部を知で強くする
 - 1年以内に知の集積、書籍出版の流れを作る
 - 編集プロダクション経験者の紹介、著者の掘り起こし …などの具体案が出てくる
- ・TVゲームの全国大会
 - NBAゲームの全国大会を主催してしまう。メーカー、雑誌媒体を招待
 - 周辺イベントを充実させ、観光PR
 - 定番化を狙う
- ・バスケカレー。皿がボールの縫い目。カレーが数種類
 - 皿の開発、提供協力店の開拓

【競技関係】

- ・オリンピック・ベスト8のチームが合宿しにくる
 - 合宿の馴染みの地になっている必要がある（2018年頃まで?）
 - 合宿向け施設の充実（国際レベルで!）
 - 能代市内の国際化対応
 - 国内外チームの合宿誘致、強化試合のための大会開催
- ・日本代表の定番合宿地
 - オリンピックに向けて毎年合宿を行えるように働きかける
 - 日本代表チームに近い人々へのアピール。能代工業OBも多数
 - 大学、実業団への合宿アピール。各地を回るエージェントの採用
- ・能代から日本代表選手が出る
 - 2020年オリンピックに能代から日本代表選手が出るためには、現在の中学・高校生が世界レベルの活躍ができるように育つ必要がある
 - 世界レベルのバスケットボールクリニックを開催する
 - 能代の中高生に世界レベルの試合を見に行ってもらう
 - 指導者の強化を、あらかじめ世界レベルを狙うつもりで行う
- ・NBAスター選手来能
 - NBA目的に渡米する日本人に来能アピールをしてもらう
 - バスケットボール雑誌の方々に能代をアピールする
 - 雑誌編集者が取材するような大会を開き、メディア向け歓待体制を用意する

【観光関係】

- ・ バスケミュージアムが日本のバスケの殿堂になる
 - 2015年を目標とした場合、2014年には勝手に表彰を開始、準備委員会を組織して選考委員の内定を進めていく、能代カップへの招待など
- ・ 小・中・高、バスケで国際交流
 - 2015年より順次国際交流大会を開催していく
 - 能代市・地元の資金以外にもスポンサーを世界レベルで募集する
- ・ パンフレットの国際化
 - ホームページの国際化
 - 観光庁へのアピール
- ・ 体育館付きの観光施設
 - バスケミュージアムと体育館を併設し、見て触れて体験できる施設とする
 - 2号館、3号館としてバスケミュージアムを拡張していく

【事業関係】

- ・ 300万円クラスの補助金でバスケ事業が起こせる
 - 使い勝手のよいチャレンジ事業とは別に、もっと世の中への影響が大きいレベルの事業を立てたくなるような体制作り
 - （せつかく作っても活用されないと困るので、あらかじめの策として）スポーツビジネス関係者を招き、事業の起こし方講座を開く
 - 奨学金制度に向けた原資にする、プロチームの結成のための準備金など...
- ・ バスケットシューズの工場・工房の誘致。企業育成
 - 大量生産拠点は難しい、ならば一点ものの工房ではどうだろうか
 - ニューヨークの21 Mercerではナイキ Air Force の制作を請け負っている
 - バスケットシューズコレクターのための木製シューキーパーの制作（木都コラボ）
 - アイデア起業塾の開催
- ・ バスケグッズ（食べ物）購入でバスケポイントがたまると景品プレゼント→NBA観戦ツアー
 - 能代市民が海外旅行（もちろんNBA観戦）に行く楽しみを持ちながら地元消費行動を取れる
 - 実は簡単に行けるという認識を与え、NBAを見たことがある市民の割合が異常に高い街、能代市を目指す
- ・ バスケに関連するもの・目にするもの～12→50を目標に
 - バスケ関連の看板に対する助成を行う
 - バスケ関連グッズ、看板のセンスを磨くため、デザイナーによるレクチャーを開催
 - バスケ関連から始まって美的センスを磨く街へ

これまでの協議経過について

時期等	時間	場所	主な協議内容等
平成24年 7月17日(火)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第1回】 委員会の役割の確認 正副委員長の選任 スケジュールの確認
平成24年 8月21日(火)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第2回】 計画推進のための具体的な取組の検討 企画・イベント等の検討
平成24年 9月26日(水)	午後7時	能代バスケットミュージアム	第2回の続き
平成24年10月30日(火)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第3回】 「バスケットの街」の測り方の検討 次年度に向けた活動及び方向性の検討
平成24年11月27日(火)	午後7時	能代バスケットミュージアム	第3回の続き
平成24年 2月26日(火)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第4回】 バスケット関連デザインの選考 数値データ等による推進の検証 1年間の振り返りと次年度に向けた活動の確認

時期等	時間	場所	主な協議内容等
平成25年 6月 3日(月)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第5回】 これまでの協議内容と今後のスケジュールの確認 今後の取組についての意見交換
平成25年 7月22日(月)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第6回】 計画推進のための取組の検討 ロゴマークの管理・活用の検討
平成25年11月11日(月)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第7回】 ロゴマークの管理・活用の検討 今後の活動の方向性の検討
平成26年 1月27日(月)	午後7時	能代バスケットミュージアム	第7回の続き
平成26年 3月 3日(月)	午後7時	能代バスケットミュージアム	【第8回】 ロゴマークの管理・活用の決定 数値データ等による推進の検証 2年間の振り返りと今後の方向性の確認